

平成31年度 国分寺市立第五小学校 学校経営計画

平成31年2月3日

国分寺市立第五小学校 校長 竹泉 稔

1 はじめに

「緑の森に囲まれて、白い校舎に旗高く」と校歌に歌われる自然豊かで落ち着いた環境に恵まれた国分寺市立第五小学校は、昭和38年4月に創立されて、本年度で開校56年目をむかえる。

第五小学校は、保護者や地域の方々の期待に応えるべく教育目標の実現に努力を重ね、文武両道に活躍する輝かしい五小の伝統を築いてきた。通学路を中心に取り組む地域見守りボランティア活動は市内草創の歴史を誇り、保護者・地域の理解と協力のもと継続している読み聞かせ等読書活動推進の取り組みや行事は定着し、学校の特色ある教育活動となっている。また、地域では祭りや地域行事に積極的に参加して楽しむ児童が多く見られる。教職員は第五小学校と五小学区の地域としての歴史と伝統を認識し、子どもたち一人一人に本校児童であることの誇りと自信を醸成しつつ、今後も本校の教育が一層向上充実するよう全力で職務の遂行に努めることを自覚しなければならない。

そのために、保護者・地域の子どもたちへの願いと、「地域の学校」である第五小学校が果たす役割への期待を的確に受け止め、特色ある教育の主体的改善と更なる充実を図らなければならない。

特に、2030年頃の社会を見据え、さらにその先の豊かな社会を築くために活躍する子どもたちを育成するために、情報化、グローバル化、AI社会に対応できるような資質・能力を確実に育む学校教育の実現を目指さなければならない。さらに、子どもたちの自尊感情を育み、自己有用感をもってやりとげる力を培うこと、自他の生命と人格を尊重する心と実践する力を育むことも教育活動の基盤として大切にしていきたいことである。

本校全教職員は“チーム五小”の一員として自己の職責を自覚し、「地域の学校」としての使命を果たすべく協働し、本校の教育の充実と発展を第一の目標とする。

2 めざす学校像

- | |
|---------------------------|
| (1) 子どもたちが主体的に学び活動する学校 |
| (2) 教職員が協働して教育活動を創造していく学校 |
| (3) 保護者や地域から信頼される学校 |

子どもたち一人一人が自分のよさや可能性を見出し、豊かな人生を切り拓き、より良い社会の担い手になるための資質・能力を獲得するための教育を推進する。また、地域の学校として様々な教育活動を地域社会と共に実践できる学校の構築に努める。

3 教育目標

《学校の教育目標》

◎本年度重点目標

元気な子	健康な心と体をもつ子どもの育成
やりとげる子	最後まで頑張る実践力のある子どもの育成
◎考える子	進んで学び、深く考え、行動できる子どもの育成
思いやりのある子	互いに理解し合い協力し合って豊かに生きていく子どもの育成

4 中期的目標と方策

「めざす学校像」と《学校の教育目標》を鑑み以下の3点を中期目標とする。

本年度の重点目標「考える子」を中心に、進んで学び、深く考え、行動できる子どもの育成を目指す。

中期的目標	目標達成に向けての中期的方策
<p>(1) 自分の力で考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。</p> <p>学校は、保護者・地域と連携して子どもたち一人一人が意欲的に学習活動に取り組むことができるよう、個性や習熟度に応じた指導の工夫を行い、「学びに向かう力」を育て、自己実現を図ることができる資質や能力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じた学び方を指導し“学ぶ意欲”を引き出し、「学びに向かう力」を育む。 ○基礎基本の反復学習を習慣化する。 ○家庭・地域と連携して、学習活動の充実と学習及び運動習慣の定着を図る。 ○言語活動を楽しむ体験を通して豊かに表現し、学んだことを活かして実践できる力を育てる。 ○学習指導要領及び年間指導計画に基づいて計画的に指導し、客観性と信頼性ある評価を行う。
<p>(2) 人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。</p> <p>学校は、保護者・地域と連携して一人一人の児童が尊重され、いじめや暴力、差別、偏見のない人権尊重の精神に貫かれた学校、学年、学級づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○規範を尊重し、思いやりと相互の共感・信頼に基づく温かい学校、学年、学級をつくり、豊かなかわりを育む。 ○道徳科を要として多様な価値観や自他のよさに気づいて自尊感情を高め思いやりの心を育てる。 ○日々の挨拶や言葉遣いの指導を通して、学校・家庭・地域のいずれの場面においても適切な言語環境を整える。
<p>(3) 地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。</p> <p>子どもたちの人間性は、学校・家庭・地域社会でのあらゆる活動の中で培われる。</p> <p>学校は、地域のコミュニティセンターとして教育情報を中心に積極的に発信に努め、“地域ぐるみの危機管理意識”を醸成するとともに、保護者・地域と共に児童の健やかな成長を支えるシステムの構築を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員一人一人が危機意識を高くもち、問題行動への対応や健康・安全に関する課題を看過せず報告・連絡・相談を行い、保護者や関係諸機関と連携し組織的かつ迅速・的確な初期対応を行う。 ○学校運営協議会とPTAを中心に意見を集約し、地域の期待に応える学校づくりや、地域と連携して実践を重ねている教育活動を発展的に定着させるシステムの構築を推進する。 ○内藤・日吉地域連合防災会と連携して学校及び地域の防災意識の高揚を図り、地域・保護者と協力し、組織的な防災対応体制を構築する。

5 今年度の取組目標と方策

今年度より2年間の東京都NIE実践校の指定を受け、新聞教育の実践を通して、言語能力やコミュニケーション能力、情報を読み解き、自らの考えを深める力等の育成を図る。

新学習指導要領に対応して昨年度から道徳科、外国語科・外国語活動、特別活動等についても平成32年度の全面実施に向けて実践を重ねてきた。引き続き、校内研究において新学習指導要領についての研究を深め、授業力の向上を図る

また、2020年東京オリンピックまで残り1年強となり、今まで以上に自分との関わりを強く実感し、それぞれが心待ちにできるようオリンピック・パラリンピック教育を計画的に推進する。

《五小スタンダード》に基づいて落ち着いて学べる教室環境を整え、どの時間にも共通する学び方と多様な表現方法を指導して定着させることで、「豊かなかかわり」の場を保証し、「変化に対応できる実践力」を育成し、「生きる力」を育てる。

《五小スタンダード》

- ① 学習規律を徹底させる。※チャイム着席 ※「はい・立つ・です」 ※ハンドサインと話型など「話し合いのルール」を活用して進んで表現し学び合う学習の充実を図る。
- ② 本時の流れが視覚的によく分かる板書計画をたて、どの時間も「めあて」と「まとめ」を明示する。
- ③ 視覚的に落ち着いて学習に集中できる教室環境を整える。
※教室前方正面には教育目標と学年目標、前方右側には「話し合いのルール」（「声のものさし」・ハンドサイン・話型）のみを掲示する。※学級目標は教室側面、または背後面に掲示する。
- ④ 生活規律を徹底させる。※気持ちよい挨拶※廊下の安全歩行※後片付け（靴・掃除道具・廊下物かけ）
- ④ 家庭と連携して学年発達段階に応じた毎日の家庭学習（10分×学年）と運動習慣を定着させる。
- ⑤ 「危機のサイン」を見逃さない。「報告→連絡→相談→報告」を確実に行う。
- ⑥ 家庭・地域との連携を密にし、課題は組織で対応する。自分一人で抱え込まない。

(1) 自分の力で考え、豊かに表現し実践できる力を育成する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
<p>◎豊かに表現する力を育てる 教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報活用能力を育成するための活動を充実させる。 ○豊かな表現力と実践できる力を育成する。 ○読書体験を一層充実させる。 ○新学習指導要領の全面実施に向けた準備をする。 ○基礎学力の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞を活用した学習と新聞づくりを各教科・領域で行い、進んで情報を収集・活用・発信する力を育てる。特に、全学年で月1回のNIEタイムを実施し、家庭とも連携した取組を進める。 ○NIEタイムを中心に新聞記事を読み、自分の考えを書く活動を月1回以上行う。 ○図書司書や保護者・地域と連携した読書指導を推進する。 ○校内研究で新学習指導要領についての理解を深め、新学習指導要領に対応した指導を計画的に行う。 ○東京ベーシックドリルを活用し、反復学習を習慣化し未習熟事項を残さない。 ○板書をノート指導に反映させ、「わかる授業」を構築する。

<p>○学習や生活の様子を発信し、家庭との共通理解を推進する。</p>	<p>○学習成果物には赤ペンを入れ、児童の努力と課題に適切な評価を丁寧に伝え、達成感を体験させ、学ぶ意欲を育てる。</p> <p>○児童のつくる新聞や学級通信等で学習や生活状況を積極的に発信し、家庭との連携を強化する。</p> <p>○コンピュータや電子黒板、図書室の活用、地域教材の開発や地域人材の活用を通して、学ぶ楽しさと学び方を指導する。</p>
-------------------------------------	--

(2) 人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
<p>◎豊かな心を育てる教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情の向上を図る。 ○学級への帰属意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分を大切に 友だちを大切に 一人一人を大切に」を五小合言葉に、互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。 ○道徳教育は学校教育全体を通して継続して取り組む。 ○「道徳科の記録」は教室廊下側上部平面に掲示する。 ○「国分寺市立第五小学校いじめ防止等のための基本方針」に基づいた教育活動を徹底し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を実践する。 ○挨拶運動“モーニングスマイル”の充実発展を図る。保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いと挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。 ○学校の様々な教育活動を通じて地域の人々などと触れ合う学習を計画して多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる

(3) 地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
<p>◎保護者・地域と連携した学習や活動の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校は積極的に情報発信する。 ○保護者・地域からの情報を生かした学習を開発する。 ○地域・保護者と協力して防災に対する組織的な対応を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブログや学校連絡メールを活用し、積極的に情報を発信する。 ○平成32年度からのコミュニティ・スクール実施を目指し、学校運営協議会等の意見を生かして、地域の期待に応える地域との連携を図った教育活動の発展的継続を推進する。 ○児童が、地域の活動に積極的に参加できるよう地域・保護者に対しても協力を求め、双方向の情報の提供を行う。教員も地域行事に参加し、「地域の一員」としての自覚をもつ。 ○内藤・日吉地域連合防災会と協力して、学校及び地域の防災意識の高揚を図るとともに、防災に対する組織的な対応力を育成する。 ○教職員一人一人が危機意識をもち、小さな課題を見過ごす事無く報告・連絡・相談を行い、保護者・関係諸機関と連携した組織的かつ迅速・的確な初期対応を行う。